

軍事極秘

昭和十九年一月二十一日

常德殲滅作戰戰況報告

第三十九師團長 澄田 暎四郎

1444

常德殲滅作戰戰況報告

第一 作戰參加部隊

一、師團八作戰參加部隊ノ主力ヲ以テ十月二十七日日没後ヨリ行動ヲ開始シ游匪ヲ掃蕩シツツ逐次李家埠周邊地區ニ兵力ヲ集結シ次デ二十九日日没後ヨリ集中地ヲ揚子江右岸彌陀寺西北方地區ニ推進シ十一月一日夜迄ニ之ヲ完了セリ

二、師團八企圖ヲ秘匿シツツ敵情地形ノ搜索特ニ松滋河畔ニ到ル迄ノ水流ノ狀況ヲ偵察スルト共ニ着々作

1445

戰準備ヲ完整シツアリシガ軍命令ニ基キ十月二日日
没後攻勢ニ前進新江口對岸ニ向ヒ急進シ松滋河ノ
渡河ヲ準備ス

三、師團諸隊ノ前進ハ概ネ順調ニシテ揚子江及松滋河ヲ
溯上セシメタル舟艇モ亦十月三日夜半ニ新江口ニ廻送
シ得ル見込ニ立チシヲ以テ師團ハ三日夜ヨリ新江口附近
ニ於テ松滋河ヲ渡河シ古賀支隊ヲ以テ劉家場附近
ノ敵ヲ師團主力ヲ以テ枝江南方地區敵ヲ捕捉殲滅ス
ルニ決ス

四師團八月四日ヨリ新江口ニ於テ渡河ヲ開始シ吉
武部隊(歩兵第百三十三聯隊主力)ヲ以テ五日ヨリ王家橋ニ
小池部隊(歩兵第百三十一聯隊第三大隊主力)ヲ以テ同日ヨリ
ヨ章家嶺ニ進出セリ
兩部隊ハ引續キ進撃ヲ開始シ吉武部隊ハ觀音寺ノ
敵ヲ急襲シ刻茶元寺ニ進出シ約二百敵ヲ攻撃中ニシ
テ小池部隊ハ敵ニ遭遇スルコトナク夕刻天子橋ニ進出ス
古賀支隊ハ舟艇故障ノ爲渡河遲延シタルモ五日夕刻先
頭部隊ハ王家橋附近ニ達ス

五、吉武部隊ハ頑強ニ抵抗スル敵第百八十五師ノ一部ヲ攻撃シ
十一月七日正午頃四得橋ニ進出ス當時枝江方面ニ既敵
ナク肖家岩方面ニ尚有カナル殘敵アリシヲ以テ師團ハ吉
武部隊ヲ以テ肖家岩方面ノ敵ヲ攻撃セシム小池部隊ハ
敵ノ抵抗ヲ受クルコトナク十一月六日朝洋溪ニ突入セリ
師團ハ吉武部隊當面ノ敵ヲ捕捉殲滅スル爲小池部隊ヲ
以テ枝江南側ヲ經テ肖家岩西北方地區ニ安藤部隊ヲ
兵第百三十三聯隊第二大隊主力ヲ以テ茶元寺ヨリ肖家岩西南
方地區ニ夫々進出セシメ十一月八日之ガ殲滅戰ヲ完遂セリ

古賀支隊ハ所在ノ敵ヲ擊推シツ其一部ヲ以テ十一月六日
夜半劉家場ニ突入シ次デ一部ヲ以テ仁和坪方面ニ主力
ヲ以テ赤溪河方面ニ穴大進中ナリ當面ノ敵ハ第百九十九師
ノ主力及第百八十五師暫編第六師ノ各一部ナリ

六師團ハ漢洋河畔ニ於テ敵ヲ擊推シツ軍ノ右側背ヲ掩護
スルニ決シ十一月九日部署スル所アリ

即チ小池部隊ヲシテ宜都西南地區ノ要線ヲ吉武部隊ヲ
シテ聶家河及熊渡附近漢洋河右岸要線ヲ夫々確保シ
漢洋河畔ニ於テ又古賀支隊ヲシテ吉武部隊ニ連繫シ梯

子口ヨリ漁洋関南方十二料育兒山ニ亘ル要線ヲ確保シ
隨時敵反攻ヲ擊摧セシメ安藤部隊ヲシテ四得橋ニ於テ
隨時漢洋河畔ニ進出シ得ル準備ヲ完整セシメ師團司令
部ハ余家橋ニ位置ス

第一線諸隊ハ所在ノ敵ヲ擊摧シツツ十月十日所命ノ配
備ヲ完了セリ當面ノ敵ハ第三十師及第百八十五師ノ一部
ナリ

七月十日師團ハ赤漢河附近ヨリ概ネ漢洋河以東ノ地區ニ
於テ軍主力ノ右側背ヲ掩護スベキ軍命令ヲ受領セリ

偶々古賀支隊ハ十月六日夜豪雨爲増水氾濫セル河川ニ
前進ヲ阻マレ且劉家場西方及西南方山系ニ於テ頑強ニ
抵抗スル敵爲前進意ノ如クナラザルモアリテ未ダ仁和坪
赤溪河ノ線ニ進出シアラザリシヲ以テ直チ各一部ヲシテ仁和
坪ヨリ赤溪河西方高地ニ亘ル各要線ヲ確保シ主力ハ赤溪
河附近ヲ根據トシ隨時敵ノ反攻ヲ撃摧スルト共ニ煖水街
附近ニ在リテ軍主力ノ迂回ヲ掩護スベキ宮脇支隊ニ協同セム
古賀支隊ハ頑強ニ抵抗スル敵ヲ撃摧シツツ主力ハ十月十日夜
赤溪河ニ一部ハ十一月十二日仁和坪ニ進出セリ

八師團六軍主力方面ノ作戰ニ策應シ十月十八日ヨリ二十日ニ
巨ル間一時兵力ヲ漢洋河畔ニ推進シ渡河進攻スル如ク陽
動スルト共ニ古賀支隊ヲシテ漁洋関方面ニ進攻スル如ク欺
騙行動ヲ活潑ナラシメタリ

九十月二十五日敵第十八軍一部仁和坪北方地區ヨリ進入スト
ノ情報ニ基キ師團八安藤部隊及吉武部隊一部ヲ古
賀支隊方面ニ派遣シ古賀支隊ト共ニ之ヲ撃破セシム
仁和坪當面ノ敵第十三師八我陣地直前ニ在リテ執拗反
攻スルヲ以テ古賀支隊八十月七日之ヲ攻撃潰走セシメタリ

師團此攻撃間安藤部隊ヲ古賀支隊ニ配屬ス

十、軍主力方面常德ヨリ轉進ニ伴ヒ敵ハ我が反轉ヲ豫想シ

十二月十四日頃ヨリ其ノ行動逐次活潑化セルモ我が第一線諸
隊短切ナル反撃ニ依リ再ビ潛伏セリ

十一、師團六軍命令ニ基キ十二月十九日日没後ヨリ行動ヲ開始シ

一部ヲ以テ洋溪、南烏口ノ線ノ各要線ヲ確保シ主力ヲ新
江口西方地區ニ集結シ敵ヲ邀撃撃滅スルノ態勢ニ移行ス
此間一部敵ノ追尾ヲ受ケタルモ其ノ行動積極的ナラスシテ
師團二十一日豫定ノ如ク轉進ヲ終了ス

次テ軍ノ原態勢復歸命令ニ基キ師團八十二月二十二日没
後ヨリ行動ヲ開始シ沅市東南方地區ニ轉進シ十二月二十
三日及二十四日兩日ニ亘リ李家埠南方地區ニ於テ揚子江ヲ
渡河シ夫々原態勢ニ復歸セリ

第二 殘置部隊

- 一、殘置部隊ノ一部ハ師團ノ作戰ニ策應シ南地區正面ヨリ
渡河進攻スル如ク陽動スルト共ニ適時師團主力ノ右翼正
面前ヲ砲撃等シ敵ヲ清江河畔ニ膠着セシメタリ
- 二、殘置部隊正面ニ對スル敵ノ反攻ハ十月十日頃ヨリ逐次活潑

化シ十月二十日ヨリ二十五日ニ亘ル間最モ熾烈ナリ

而シテ殘置部隊北正面ハ全般ニ反攻ヲ受ケタルモ龍泉鋪
地區正面最モ執拗ナリ

殘置部隊ハ機動兵力ノ主力ヲ以テ隨時之ヲ擊手摧シ其ノ
企圖ヲ封殺セリ

三、十月二十四日軍ヨリ獨立歩兵第百二十二大隊ノ配屬ヲ受ケタ
ルヲ以テ殘置部隊北正面ノ狀況ニ鑑ミ之ヲ鴉鶻嶺ニ位置
セシメ隨時敵ノ反攻擊手摧ニ使用ス

四、執拗ナリシ敵反攻モ十二月十三日龍泉鋪地區正面ニ於ケル我

が反撃以來漸ク静穩トシテ作戰參加部隊ノ原駐地歸
還ト共ニ全ク平靜ニ歸セリ

之ヲ要スルニ今次作戰ニ於テ師團ハ軍主力南進ノ後據トシテ
長期間ニ亘リ漢洋河畔及仁和坪赤溪河ノ各要線ヲ確保
シ隨時反攻スル敵ヲ或ハ撃摧シ或ハ抑留シ他面殘置各部隊
モ亦寡兵克ク數次ニ亘ル執拗ナル敵反攻ヲ撃摧シ其ノ後方
攪亂ノ企圖ヲ挫折セシメタリ 是固ヨリ 御稜威ノ下天佑神助
ノ賜ナリト雖モ亦上司ノ適切ナル指導ト諸隊ノ勇戦奮闘トニ
因ラザルナク衷心感謝感激ニ堪ヘザル次第ナリ

1456

翻ツテ戦績ヲ觀察スルニ更ニ練磨向上ヲ要スルモノ甚シトセズ
小職以下実績ニ對シ更ニ仔細ニ反省檢討ヲ加ヘ直チニ以テ之ヲ
實行ニ移シ指揮ノ練磨向上ト教育ノ刷新徹底トヲ圖リ愈
精強ナル軍隊ヲ練成シ以テ名實共ニ總前兵タルノ實質ヲ
具備シ上司ノ期待ニ副ハシコトヲ期ス
右報告ス

昭和十九年一月二十一日

第三十九師團長 澄田 隼 四 郎

1457